

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立八潮高等学校)

目指す学校像	「清纯 真摯」の校訓のもと、社会の中で力強く生きる力を育てる学校
--------	----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と向上を図り、より高い進路希望実現を目指す。 部活動への積極的な参加を促し、生徒の行動力・実践力を高める。 保護者・地域との連携を強化し、生徒募集の安定化を図る。
------	--

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割以上)
	C 変化の兆し(4割以上)
	D 不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標			年 度 評 価 (1月31日 現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○普通科特伸クラスが発足して2年が経過した。進路において成果が出始めてきた。さらに進学に向けてのシステムの構築が必要である。さらに他の普通科クラス・体育コースにおける生徒一人一人の学力向上に向けて具体的な授業授業づくりを進めていく必要がある。	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の基礎学力を定着・向上 ②特伸クラスを中心とした進路進路への増加 ③新学習指導要領に準う教育課程の編成 	<ol style="list-style-type: none"> ①学力向上委員会と進路指導部が中心となり、生徒の学力向上に向けた具体策の検討 ①-2授業公開週間や研修会を実施し、生徒の実態に合わせた授業力向上に向けた話し合いを推進する。 ①-3未来を拓く『学び』プロジェクトに希望者を派遣し、授業改善のリーダーの育成とともに、校内へのフィードバック(報告会)を行う。 ①-4朝学習や読書指導等の指導を推進する ①-5前年度以上に資格取得指導を推進する ①-6受験機会の拡大や受験者数の増加を図り、生徒の主体的な学ぶ姿勢を育んでいく ②進路指導部を中心に、進路実現のための指導を推進する ②-2基礎力診断テスト結果の検証を進め、学習指導や進路指導に活かしていく。 ②-3進路行事を通じて生徒のキャリア教育の充実を図る。 ③新学習指導要領を教育課程委員会を中心に学力向上委員会や進路指導部、関係分掌等と連携し、編成する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学力向上に向けた具体策の検討ができたか。 ①-2授業力向上の話し合いが推進されたか。 ①-3校内フィードバックを実施したか。 ①-4図書館利用の増加 ①-5資格試験者数の増加及び合格者数の増加(前年比) ①-6受験者生数の増加 ②就職事務系・公務員・中堅以上以上の大学進学100% ②-2基礎力診断テスト「脱D3・増B3以上」の取組 ②-3進路実現への積極的な挑戦上、進路実現100%を達成できたか。 ③基礎学力向上より進路進路実現に向けた教育課程を編成できたか。 	<p>学習環境の整備や授業改善の取組については順調に成果を上げたものの、進路実現に向けた指導や資格取得指導については進捗はあり達成度Bとした。</p> <p>組織的な授業改善や取組は進み、ICT機器を活用した授業づくりが浸透しているが、進路実現や資格取得についてはさらなる努力が必要と思われる。</p> <p>①校内研修や、授業改善週間、管理職による授業観察やそのフィードバックにより、授業改善が進んでいる。今年度より学習サポーターによる授業支援や生徒の学習支援が実施された。</p> <p>②図書館利用は拡大傾向にあり、ピピリオバトル(県・市主催)への積極的な参加につながっている。図書館で過ごす生徒が着実に増えており、言語活動の充実の向上が図られた。</p> <p>③資格取得の全校的な取り組みに至っておらず、拡大のための生徒への働きかけが不十分であった。</p> <p>漢字検定 2級 1名 3級 8名(合格率14.5%) 英語検定 3級 17名(合格率31.1%) 情報処理 準2級 7名 3級 103名 4級 44名 (合格率65.5%)</p> <p>④-1特伸クラスの成果について中学校より高い評価を受けた。公務員・AO・センター試験などによる進学希望者が増加し、きめ細かな指導により大きな成果を上げた。次年度以降に継続して成果を上げていくことが地域の信頼に応えることになる。</p> <p>④-2生徒向けの課題検査検証や職員向けの研修会を通じて学びの意欲向上を図ることができた。</p> <p>⑤教育課程委員会・学力向上委員会を検討の場として活発な協議を行うことができた。今後とも生徒の学力向上・進路実現につながる議論を深めていきたい。</p>	B	<ol style="list-style-type: none"> ①学力向上のため、組織的な授業改善を進めるとともに、学習サポーターの効果的な活用。 ①-2朝学習の内容の充実。 ①-3家庭学習は、長期休業期間や基礎力診断テスト等と関連付けて実施した。引き続き、毎日の家庭学習課題の指導を推進する。 ②図書館を利用した授業の拡大。 ②-2電子黒板やタブレット端末を活用した授業づくり。 ③全生徒を対象とした資格取得指導に向けた強化への働きかけ。 ④-2校内研修会の充実。 ④-地域や生徒の実態や要望に即した教育課程編成。 	<ol style="list-style-type: none"> ①中学校ではICT支援員による教員への指導が充実していた。研修を通じてICTのスキルアップを図ってほしい。 従前の授業形態を見直し、密度の濃い授業を実現するため、ICT機器を活用した授業を全員の先生にお願いしたい。 ①学校の勉強が生徒たちの今後の人生に活かせるように指導してほしい。例えば、英会話ができるようになり、他言語・異文化の人たちと交流ができるような人材育成を期待している。 ②図書館の授業活用が進んでいる。司書教諭との連携を深め、利用者数の増加やピピリオバトル等の取組を通じて言語活動の充実を願ってほしい。 ③資格取得の活用性を生徒に理解させ、指導を進めてほしい。
2	○生徒数の減少や中学校での部活動数の減少に伴い、運動部を中心に活動人数が減少している。	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動の活性化を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒全員を部に所属・活動させる。 運動部・文化部ともに、積極的に大会やコンクール等に出場し、活動の活性化を図る。 ①-2部活動表彰者数の増加 ①-3本校部活動と中学校の部活動との合同練習の促進を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動の活性化が図られたか。 ①②週3日以上活動ができていない部活動について活性化を進める観点から、活動の在り方について協議する必要がある。 ③すべての運動部で中学校やクラブチームとの合同練習を実施できた。 ④中高による連携数の増加 	<p>中学校や地域のスポーツクラブ等との交流は進んでいるものの、部員数の充実や部活動の活性化についてはさらなる努力が必要と考え達成度Bとした。</p> <p>①②週3日以上活動ができていない部活動について活性化を進める観点から、活動の在り方について協議する必要がある。</p> <p>③すべての運動部で中学校やクラブチームとの合同練習を実施できた。部活動によるパイプ作りをさらに強化していく。</p>	B	<ol style="list-style-type: none"> ①部員の確保と生徒指導部の調査に基づく活動の活性化。 ②必要教員数に見合った部活動数への見直し。 ③中学校との更なる連携強化。 	<ol style="list-style-type: none"> ①中学校やクラブチームとの連携を密にし、部員を確保してほしい。 ②中学校と一緒に練習する機会を増やすことで、顧問同士の結びつきを深めてほしい。
2	○全体的に落ち着いた学校生活を送る生徒は多いが、進路変更や基本的な生活習慣が確立していない生徒もいる。	<ol style="list-style-type: none"> ①進路変更者数 ②基本的な生活習慣 	<ol style="list-style-type: none"> ①②指導措置後生徒への定期的な声掛けや面談等を行い、問題行動を未然に防ぐ。 ①②-2教育相談委員会や特別支援委員会を中心に情報収集や対象生徒への指導の充実を図る。 ①②-3スクールカウンセラー(毎月1回)や特別支援教育巡回支援員の積極的な活用を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路変更者数は減少したか。 ②欠席・遅刻数は減少したか。 	<p>家庭との連携を密にし、進路変更の防止に努めたが減少局面に転ずることができず達成度Bとした。</p> <p>学校全体から、家庭連絡を密に重ね、きめ細かな指導を重ねてきたが、中学校からの不登校生徒の状況改善には至らなかった。</p> <p>①転退学者の減少に至らなかった。特に、1年生では、入学直後から欠席が続く、不登校になるケースが目立った。2・3年生においても、就学意欲の減退から進路変更に至るケースがあった。</p> <p>②転退学者の減少につながる効果的な指導を打ち出すことができなかった。</p>	B	<ol style="list-style-type: none"> ①小・中学校からの不登校経験者へのきめ細かな対応。 ①家庭連絡を密に重ね、きめ細かな指導や情報収集で不登校傾向の生徒をケアしてはどうか。 ②転退学者減少に向けた指導体制確立のため、保護者対応やコミュニケーションスキル向上に向けた研修の充実が必要。 	<ol style="list-style-type: none"> ①小中一貫校は「キャリア解消」を目的に設けられた。入学前・入学当初のオリエンテーションできめ細かな指導や情報収集で不登校傾向の生徒をケアしてはどうか。 ②転退学者減少に向けた指導体制確立のため、保護者対応やコミュニケーションスキル向上に向けた研修の充実が必要。
3	○本校に関する理解や情報が地域等に周知されていない。地元を含め地域への理解を促進させる必要がある。	<ol style="list-style-type: none"> ①地元地域や通学可能地域の信頼を得た生徒募集を実現させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①中高連携委員会を中心に学校説明会や体験入学等の生徒募集活動を展開する。 ①-2特伸クラス、進学クラス、教養クラス、体育コースについて出席者に理解しやすいプレゼンテーションを実施する。 ①-3実施校数の増加 ①-4HPアクセス数 ①-5中学生の入試動向の把握ができたか。 ①-5塾訪問を実施し、訪問時に本校の評価や評判を伺い、今後の広報活動に活かしていく。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校説明会や体験入学会等の参加者数の増加。 ①-2学校説明会や体験入学参加者から高い満足度を得ることができたか。 ①-3実施校数の増加 ①-4HPアクセス数 ①-5中学生の入試動向の把握ができたか。 ①-6入学志願者数は増加したか。 	<p>体育コースでは4名の定員割れであったが、普通科では定員を生和○志願者を確保できた。学校全体の定員を上回る志願者確保が実現できたことから達成度Aとした。</p> <p>家庭連絡を密に重ね、きめ細かな指導を重ねてきたが、中学校からの不登校生徒の状況改善には至らなかった。</p> <p>①転退学者の減少に至らなかった。特に、1年生では、入学直後から欠席が続く、不登校になるケースが目立った。2・3年生においても、就学意欲の減退から進路変更に至るケースがあった。</p> <p>②転退学者の減少につながる効果的な指導を打ち出すことができなかった。</p>	A	<ol style="list-style-type: none"> ①-2中学校や塾への訪問活動の継続と連携の強化。 ②メディアへの学校情報の発信と取材協力者の継続。 	<ol style="list-style-type: none"> ①説明会等への参加者が引き続き増加するよう、あらゆる機会・媒体を駆使して志願者確保に取り組みいただきたい。 ①体育コースの生徒はスポンサー万端でなければならぬ、と思われている。「ジャニーズ」会員がバックアップできるわけではない。志願者確保のため、「スポーツ」の興味・関心を重点的にPRしてほしい。 ②地域貢献を通じて学校のPRを継続してもらいたい。 ③施設の老朽化がマイナスイメージにつながっている。大規模改修工事の早期実施に向けて関係各所に働きかけてほしい。